

# 国と東電の責任認めて

## 原発事故は人権問題

### 名古屋高裁判決前に 避難者ら集会



控訴審勝利へ決起する岡本原告団長(中央)とサポーターの人たち。22日、名古屋市中村区

福島原発事故避難者でつくる「だまっちゃおれん!原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜」は22日、名古屋高裁判決(11月22日)を前にして名古屋市内で決起集会を開き、原告、弁護士、支援者ら50人が参加しました。

同訴訟は、愛知・岐阜・静岡の3県に避難した42世帯128人が国と東電を相手取り、損害賠償を求めて提訴(2013年)したものです。名古屋地裁の判決(19年8月)では国の責任を認めず、東電に対し109人に慰謝料を支払うよう命じ、19人の請求は棄却しました。原告と東電ともに控訴しました。控訴審では、原発事

故は人権問題だとして「原発を国策として推進してきた国の責任を明らかにしてほしい」と7世帯23人が「被曝(ひばく)防護、脱原発、被曝を避ける権利」を求めて、新たに原告団(岡本早苗团长)を結成しました。二つの原告団、弁護団が協力し同じ裁判をた

たかってきました。結審(7月)前には、徹底審理と公正判決を求める請願署名7909人分を名古屋高裁に提出しています。集会であいさつした原告の男性は、事故当時6歳の子もが外で遊べなくなり、洗濯物も外に干せなくなったと語り、「避難してうれしかったのは、放射能の心配なく呼吸ができたこと」と振り返りました。「なぜだたかうのか、子どもたちの未来を守るため。汚染水を海洋に流し、汚染土壌を日本中ばらま

こうとする政府のやり方はあり得ない。心ひとつに一緒にがんばりたい」と語りました。岡本团长は「避難しなかった人、できなかつた人はいまだに『被曝を避ける権利』を侵害され続けている。権利を行使し避難した人も、全てを捨てなければいけなかった」と話します。「いまの政治や社会に事故の教訓が残っているとは思えない。加害者である国と東電は再び原発を推進している。最後の最後まであきらめず署名を積み上げ、国と東電の

責任を認めさせ、勝訴を勝ち取っていく」と訴えました。富田隆男弁護士団長は、生業(なりわい)訴訟など4訴訟で国の責任を認めなかった最高裁判決(22年6月)を批判。名古屋高裁には最高裁判決を乗り越えた判決を求めてきたと述べ、「国と東電の責任を認めさせることが被害者救済の第一になる」と話しました。参加者全員でパナールを掲げ「だまっちゃおれん!」と声を上げ、高裁勝利へ意思統一しました。

責任を認めさせ、勝訴を勝ち取っていく」と訴えました。富田隆男弁護士団長は、生業(なりわい)訴訟など4訴訟で国の責任を認めなかった最高裁判決(22年6月)を批判。名古屋高裁には最高裁判決を乗り越えた判決を求めてきたと述べ、「国と東電の責任を認めさせることが被害者救済の第一になる」と話しました。参加者全員でパナールを掲げ「だまっちゃおれん!」と声を上げ、高裁勝利へ意思統一しました。

責任を認めさせ、勝訴を勝ち取っていく」と訴えました。富田隆男弁護士団長は、生業(なりわい)訴訟など4訴訟で国の責任を認めなかった最高裁判決(22年6月)を批判。名古屋高裁には最高裁判決を乗り越えた判決を求めてきたと述べ、「国と東電の責任を認めさせることが被害者救済の第一になる」と話しました。参加者全員でパナールを掲げ「だまっちゃおれん!」と声を上げ、高裁勝利へ意思統一しました。

責任を認めさせ、勝訴を勝ち取っていく」と訴えました。富田隆男弁護士団長は、生業(なりわい)訴訟など4訴訟で国の責任を認めなかった最高裁判決(22年6月)を批判。名古屋高裁には最高裁判決を乗り越えた判決を求めてきたと述べ、「国と東電の責任を認めさせることが被害者救済の第一になる」と話しました。参加者全員でパナールを掲げ「だまっちゃおれん!」と声を上げ、高裁勝利へ意思統一しました。

責任を認めさせ、勝訴を勝ち取っていく」と訴えました。富田隆男弁護士団長は、生業(なりわい)訴訟など4訴訟で国の責任を認めなかった最高裁判決(22年6月)を批判。名古屋高裁には最高裁判決を乗り越えた判決を求めてきたと述べ、「国と東電の責任を認めさせることが被害者救済の第一になる」と話しました。参加者全員でパナールを掲げ「だまっちゃおれん!」と声を上げ、高裁勝利へ意思統一しました。